

私たちの自然



公益財団法人 日本鳥類保護連盟
Japanese Society for Preservation of Birds

特集▶野鳥を知る・楽しむ～タカの渡り～



関東で出会った珍しいシギ

9月から10月、関東で撮影

秋の渡りの時期に日本で稀にしか見られないシギに東京近郊でも出会うことがあります。いずれも、私は一度しか見た事がないシギたちです。

江口欣照（東京都府中市）



ヘラシギ



コキアシシギ

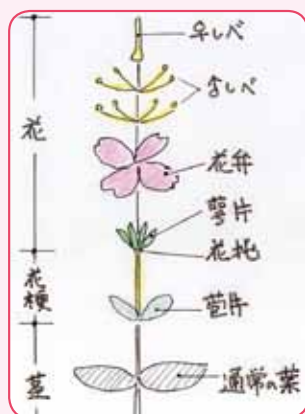


コモンシギ

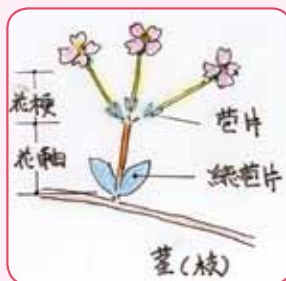


ヒメハマシギ

植物豆知識〈41〉 図鑑の解説を、図解で理解。



花弁、^{がくへん}萼片、^{かこう}花梗、^{ほうへん}苞片、^{かしく}花軸、^{そうほうへん}総苞片…etc. 植物図鑑の解説には馴染みの薄い用語が並びます。観察会では花の構造を自作のイラストで説明します（左図）。



「各部の名称は色や形などに関係なく位置関係で決まります。ユリの花弁と萼片は同型なので6枚の花びらに見えますね。アジサイの花びらは萼片、ドクダミ（右上）やハナミズキでは総苞片です」と伝えると、皆さまの表情に得心の



笑みが浮かびました。続けて、ハナカンナ（右下）の花びらが本当は^{おしべ}雄蕊であることを伝えると驚きの声が上がりました。

杉崎光明（樹木医・東京都江戸川区）

*上図の花弁や萼片の個数は植物の種によって異なります。また花弁や萼片が退化した種もあります。

スタッフだより

エダシャクとアキアカネ

枝に擬態するシャクガという蛾の仲間、トビモンオオエダシャクの幼虫（枝についている黒っぽいのが幼虫）。枝に擬態しているのでアキアカネも枝と間違えている。アキアカネにばれないように身動き一つしない。耐えている気持ちが伝わってくるようでとても印象的だった。

藤井 幹（調査研究室）



VOL.66



NO.660
SEPTEMBER
OCTOBER
2025

私たちの自然

第66巻 No.660 2025年9・10月号



特集 野鳥を知る・楽しむ ～タカの渡り～

- 2 タカの渡りを楽しもう (久野公啓)
- 5 タカの渡り観察地紹介①：山本山 (中山正則)
- 6 タカの渡り観察地紹介②：萩谷総合公園 (小林正和、小林綾子)
- 7 タカの渡り観察地紹介③：烏帽子岳 (今里 順一郎)
- 8 サシバの渡りルート全容解明プロジェクト (連盟 調査研究室)
- 10 生きものはつながっている
メジロの渡り (藤井 幹)
- 12 生きものはつながっている
野鳥と果実 目立つから美味しいとは限らない！？ (秋山幸也)
- 14 羽根探偵の謎解きファイル エピソード4 (郷上マナツ)
- 18 国際サシバサミット2025 宇検村奄美大島
- 20 第59回全国野生生物保護活動発表大会
応募校野生生物保護活動資料の公開と一般投票について
- 21 書評コーナー (『鳥のなかま&分類・系統図鑑』)
- 22 連盟だより
- 23 インフォメーション
- 24 使用済み切手・カード類提供のお願い／商品の注文について／バックナンバーの提供について
／会費の有効期限の見方／広告募集／編集後記

ネイチャーフォト

関東で出会った珍しいシギ (江口欣照)

植物豆知識<41> 図鑑の解説を、図解で理解。(杉崎光明)

スタッフだより

エダシャクとアキアカネ (藤井 幹)

表紙のことは

久野公啓

ハチクマ

(長野県白樺峠で撮影)

タカの渡り観察地として知られる長野県白樺峠。ハチクマは当地を代表するタカのひとつですが、蜂が大好物という奇妙な生態をもちます。本種の調査、研究、撮影に長年、取り組んできましたが、その美しい姿にも魅了されています。



タカの渡りを楽しむ

渡り鳥研究家 久野公啓 文・写真

春と秋は、渡り鳥たちが移動する季節です。ハクチョウやツルが渡る様子は、しばしばマスコミに取り上げられますが、今回、紹介するのはタカ類、ハヤブサ類の渡りです（本稿中では慣習的に「タカ」の中にハヤブサ類も含める）。普段、目にする機会の少ないタカたちが群れ飛ぶ光景は渡りシーズンならではの（写真1）。日本各地の観察地にタカの渡りに魅せられた多くのファンが集います。ここでは、秋の渡り観察を主眼に、その楽しみ方をお伝えしましょう。

●どんなタカが見られるの？

日本で見られるタカ類とハヤブサ類は、いわゆる迷鳥を除くと計25種ほどですが、そのほとんどが渡り鳥です。多くの種を同時に観察できるのも渡り観察の魅力のひとつで、1日に10種以上のタカが見られることも稀ではありません。中でもオオワシ、ノスリ、サシバ、ハチクマ、アカハラダカの5種は大集団で渡ってゆく習性があり、これらのタカが渡り観察の主役と言えます。



写真1 上昇気流の中で旋回上昇するサシバ群の飛翔航跡を画像処理によって描いてみた。（白樺峠にて）

●オオワシとノスリ

北海道や東北地方北部など、北日本ではオオワシ（写真2）とノスリ（写真3）が主な観察対象です。日本最北端の宗谷岬では、10月中旬から11月上旬にかけて、サハリン方面から南下してくるオオワシを数多く見ることができ、1日に1,000羽以上のワシが観察されることもあります。その個体数は大型ワシ類の渡りとしては世界的にみてもトップクラスでしょう。宗谷岬を通過したワシたちの多くは北海道内各地や千島列島などで越冬するので、本州以南では少数しか見られません。

一方、ノスリは西日本も含め多くの場所で渡りが見られますが、青森県龍飛崎では津軽海峡を越えて南下してくるノスリを、多い日には2,000羽ほど観察できます。ノスリの渡りの期間は後述するサシバやハチクマに比べて長く、9月上旬から10月下旬までです。その分、渡りのピークを予想するのが難しいのですが、ノスリには独特の魅力があります。比較的ゆったりとしたペースの流れが長時間、継続す



写真2 眼前に飛来したオオワシ。タカの渡りはカメラマンにも人気のイベント。（宗谷岬にて）



写真3 荒れる海峡を背景に飛ぶノスリ。渡り観察では眼下にタカを見ることがもある。(龍飛崎にて)

ることが少なくなく、1羽1羽のタカをじっくり見たい方にオススメです。中部地方や近畿地方では、近年、ノスリの通過個体数が明らかに増加しています。

●サシバとハチクマ

「タカの渡り」と言えば、まずサシバを思い浮かべる人が多いかもしれません。愛知県渥美半島の伊良湖岬はその観察地として有名ですが、江戸時代の文献に移動の様子が詳しく紹介されています。平安時代の和歌にも伊良湖岬のタカが登場しており、古の人々もタカの渡りに注目していたことがわかります。伊良湖岬では9月下旬から10月初旬に大半のサシバが通過し、多い日には1日に1,500羽ほどのサシバを観察することができます。同じ本州中部の内陸部に位置する長野県松本市白樺峠では、伊良湖岬より10日ほど早い9月中下旬に多くのサシバが通過します。両地点ともサシバと同じ時期にハチクマ(写真4)も渡りのピークを迎え、これらが入り混じった群れを見ることができます(写真5)。白樺峠では1日に5,000羽を超える渡りが何度か記録されました。

伊良湖岬や白樺峠を通過したサシバは近畿地方から四国へと入り、九州南部を経由して南西諸島など



写真4 表情がわかるほどの距離をハチクマが通過してゆく。ドキドキの瞬間。(白樺峠にて)

の越冬地へと向かいます。一方、ハチクマは中国地方、九州北部を西へと進み、東シナ海を横断して中国大陸を目指します。海越えの出発点となる五島列島の福江島大瀬崎では、9月下旬にハチクマの大集団を見ることができ、多い日には5,000羽ものハチクマを観察できます。

サシバとハチクマの渡りは短期間に集中する傾向があり、その分、群れの規模も大きく、「当たり日」を狙いやすくなります。本州中部以西には、これらの観察スポットが数多くあり、初心者にも観察しやすいタカたちです。

●アカハラダカ

日本を渡るタカの中でもアカハラダカは特別な存在です。朝鮮半島などで繁殖したアカハラダカは、9月上旬から中旬にかけて、大群をなして対馬、九州、南西諸島を南下してゆきます。群れの規模と密度が最大の特徴で、対馬の内山峠では、1日に30万羽以上が記録されたことがあります。アカハラダカは本州でも少数の通過が見られますが、九州や南西諸島に現れる群れの迫力は別次元。バードウォッチャーなら、一生に一度は見ておくべき光景です。

なお、近年、実施された衛星追跡調査によって、



写真5 サシバとハチクマの混群が頭上で旋回。タカの識別も渡り観察の楽しみ。(白樺峠にて)

九州などを經由せずに、朝鮮半島からそのまま東シナ海上を南下し越冬地に至る個体が少なくないことがわかってきました。小型のタカが昼夜を問わずに海上を飛び続けるのです。渡り鳥たちの飛翔力の凄さを思い知らされる事例です。

●どこで観察すればよい？

まずは「タカの渡り全国ネットワーク」のホームページをご覧ください。日本各地で実施されているカウント調査の結果をとりまとめており、渡りシーズン中は、当日の速報を掲載する地点が少なくありません。また過去の調査結果もチェックできるので、それぞれの地点の最盛期などもわかります。アクセス情報や観察会の予定なども掲載されているので、これからタカの渡りを観察したい方にもベテランにも、たいへん有用なサイトです。

拙著、『タカの渡り観察マニュアル』『タカの渡りを楽しむ本』（いずれも文一総合出版刊）では、それぞれ20箇所ほどの観察地をピックアップし、見どころや観察適期などを紹介しているので、これらの書物も参考になるでしょう。また、自分だけの観察スポットを探すのも楽しいものです。近隣の通過情報や衛星追跡の結果などを参考にタカたちの動きを予想し、見晴らしの良い場所で彼らの飛来を待つのです。思いもよらぬ発見があるかもしれません。

「タカの渡り全国ネットワーク」ホームページ

<http://hawknet.sunnyday.jp/hawknet/hawknet0.html>



●タカ渡り観察 必携グッズ

タカの渡り観察では、長時間、同じ場所で待機することを前提に装備を整えましょう。渡りシーズンは朝夕と日中の寒暖差が大きい時期で、突然の降雨があるかもしれません。さまざまなコンディションに対応できる服装がよいでしょう。近頃は、春や秋にも真夏のような暑さの日が増えてきました。暑さが予想される場合は熱中症対策を万全にする必要があります。サングラス、日焼け止めなどの紫外線対策も重要です。その場では我慢できたとしても、目や肌に重大なダメージが残るケースがあるのです。タカを待つ時間そのものを楽しむ工夫も大切です。快適な椅子や、ちょっと贅沢なお菓子や飲み物を用意すると良いでしょう。日本には桜の花を愛でる「花見」が文化として定着していますが、これと同じように、季節の行事として「鷹見」を楽しむ人が増えることを切に願います。



白樺峠カウント調査地の風景。タカの渡り観察ではスコープと双眼鏡が必需品

Profile

久野公啓（くの・きみひろ）渡り鳥研究家。毎年、春と秋、合わせて4ヶ月間ほど通過する渡り鳥を数えて過す。長野県白樺峠、青森県龍飛崎が主な調査地。著書に「タカの渡り観察マニュアル」「タカの渡りを楽しむ本」「田んぼで出会う花・虫・鳥」などがある。YouTubeには「久野公啓」のチャンネル名で関連動画を公開中。

https://youtube.com/channel/UCPuXDJwhTnZ6r_UYXboLtkw?si=oahj638sAE0JiKKb



タカの渡り観察地紹介①：山本山（新潟県小千谷市）

タカ渡りネットワーク 中山正則 文・写真

山本山における秋期・初冬のタカ類・ハヤブサ類の渡りについて1997年からの調査記録によりご紹介いたします。

●観察地概要

新潟県小千谷市にある山本山の山頂付近が観察地です（図）。標高336.1mで、山体は古い信濃川河岸段丘でコナラ二次林の丘陵です。平坦部は蕎麦畑として大規模に利用され、ブルーベリー園もみられます。観察場所の2階建ての展望台までは車で行くことができます。

●観察されるタカ類・ハヤブサ類

これまで観察されたタカ類・ハヤブサ類は、ミサゴ、ハチクマ（写真）、クマタカ、イヌワシ、アカハラダカ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、トビ、オジロワシ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ハヤブサの17種です。2009年から2024年（9月～12月）の観察結果から渡りの状況をみてみます。観察総個体数は、65,707羽で年平均4,066羽でした。

観察数上位の4種は、ノスリ、サシバ、ハチクマ、ツミの順でした。ノスリは年平均1,381羽、サシバは年平均1,164羽、ハチクマは年平均667羽、ツミは年平均477羽でした。

●渡り（ルート・時期・時間）

小千谷市の金倉山（標高581.4m）方面から飛来し、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ノスリは山本山附近の上昇気流を捉え、他の種は羽ばたきながら小千谷市北山方面に向かって行きます。その後は多くの個体が、牧峠・白樺峠を通り抜け、西日本へ向かうと考えています。

渡りの時期は、8月下旬から12月下旬です。サシバ、ハチクマの渡りのピークは、9月中・下旬です。



図 山本山位置図

この2種だけで、1日に854羽に達したこともあります。ノスリの渡りのピークは、10月中旬から11月初旬です。ツミは9月中旬から11月下旬にかけてコンスタントに観察されます。多く観察される時間は、午前8時から午後1時です。渡りのピーク時はこの時間外も多数観察されます。

雨が続いた後の晴れた日は、地面が温まり上昇気流が発生します。こんな日は雨で飛びかねていたタカ類が多く飛来し、“鷹柱”や“鷹の川流れ”が見られます。これを目にした観察者は思わず感嘆の声をあげます。ぜひ双眼鏡、フィールドスコープを持ってお越しください。



写真 ハチクマ幼鳥暗色型

Profile

中山正則（なかやま・まさのり）1948年新潟県小千谷市生まれ。山本山タカ渡り観察を創始し、タカ渡りネットワークで観察結果を報告。日本生態学会会員、日本鳥類学会会員、日本野鳥の会会員。2015年5月日本鳥類保護連盟会長賞受賞。

タカの渡り観察地紹介②：萩谷総合公園（大阪府高槻市）

高槻ホークス萩谷調隊 小林正和・小林綾子 文・写真

●秋季タカの渡りが観察できる公園

萩谷総合公園は 1998 年に開園され、サッカー場、野球場、テニスコートのある運動公園でありながら、大きな滑り台の遊戯施設もあり週末は家族連れなど多くの人で賑わいます。標高 188 m の地点、公園内のわんぱく広場の一番東寄り、東側を一望できる場所で観察しています（図）。秋のタカ渡り観察の記録は、2005 年から開始され現在にいたります。

最も多く観察されたのは 2015 年の 10574 羽で、開始当時からは毎日観察される方や土日にならず来られる方もおられましたが、2018 年ごろから観察人員が減ったこと、新名神高速道路が完成した影響もあるかもしれませんが、近年は 5,000～6,000 羽にとどまっています。

●渡りのピーク

9 月中旬～10 月初旬は、サシバ、ハチクマ中心に渡り、ピーク時は 50～100 羽近いタカ柱が観察できることもあります。

10 月中旬～下旬はノスリ（写真）中心に渡り、ツミやハイタカ（東行き）も出現します。早朝には付近で噂入りしていたタカが、稜線から飛び立つ姿も見られ、観察場の真上で近いところを帆翔してくれることもあります。

サシバやハチクマが稜線で休憩する姿や、ノスリが観察場の鉄塔に止まることもあります。その他の猛禽としては、ミサゴ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウゲンボウ、オオタカ、トビが出現することがあります。



写真 公園で観察されたノスリ

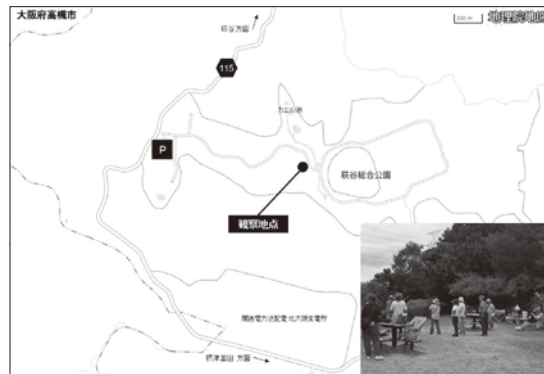


図 萩谷総合公園の位置図

●注意事項

上空で高く飛んでいるタカを見ますので双眼鏡は必須です。10 月上旬頃までは、暑さ、日よけ、虫よけ対策が必要です。木陰もありますが観察人員が増えますと陰のない場所で見ることになります。週末は家族連れも多く、子どもたちが周囲を走り回ることもありますので、カメラ、スコープ、三脚を持参される方は置き場所に注意が必要です。10 月下旬になりますと冷え込むことがありますので防寒着等が必要です。

自動販売機はありますが、売店はありませんので、長時間観察される場合は食事やレジャーシート、イス等を持参されるのがおすすめです。トイレは観察場近くにあります。

●アクセス

公共交通機関で JR 京都線摂津富田駅から高槻市営バス、萩谷または萩谷総合公園行に乗車して萩谷総合公園まで約 20 分ほどです。自動車では国道 171 号線の交差点（大畑町）から大阪府道 115 号線を公園入口が見えるまで北上します。新名神高速道路高槻 IC から約 20 分、新名神高速道路茨木千堤寺 IC から約 30 分ほどです。バス停、駐車場から観察場まで徒歩約 5 分です。有料駐車場あり、収容約 350 台です。

Profile

小林正和（こばやし・まさかず）小林綾子（こばやし・あやこ）。大阪府三島郡在住。枚方野鳥の会会員。2004 年に高槻ホークス萩谷調査隊設立、2009 年より調査に参加。

タカの渡り観察地紹介③：烏帽子岳（長崎県佐世保市）

日本野鳥の会長崎県支部 支部長 今里 順一郎 文・写真

●烏帽子岳の概要

長崎県佐世保市のほぼ中央部に位置し、標高は568mです（図）。山頂周辺部は西海国立公園に指定されていて山頂からは佐世保市街地を一望することができます。頂上の下には駐車場があり、そのすぐ横の草地が観察場所です。佐世保駅から車で30分ほどかかり、定期バスも運行されていますが、観察時間を考慮すると自家用車やレンタカーをおすすめします。

●アカハラダカ渡る佐世保市烏帽子岳

アカハラダカは全長30cmほどのハトぐらいの大きさのタカです（写真）。成鳥になると胸から腹にかけて橙色や茶褐色になります。白い翼の先が黒いのが大きな特徴です。朝鮮半島等で繁殖し、秋になると東南アジアへ渡り冬を越します。その移動経路に烏帽子岳があります。数十羽から数百羽の群れがタカ柱をつくり、頭上で舞う光景は壮観です。好条件が揃うと続けて大群が飛来して、1日で数千羽観察できることもあります。

●アカハラダカが渡る時期と天候

9月の中旬（10日頃から20日頃）が観察に最も適しています。15日前後がよく飛来しますが、10日前後や20日過ぎて大群が飛来することもあるので気象情報をしっかり見ることも大切です。朝鮮半島付近に高気圧があったり、前日まで雨が降ったりした後の晴天日で、北風が吹くときに期待が持てます。

●観察に適した時間帯

よく飛来する時間帯が、1日に3回あります。まず、



アカハラダカ オス成鳥

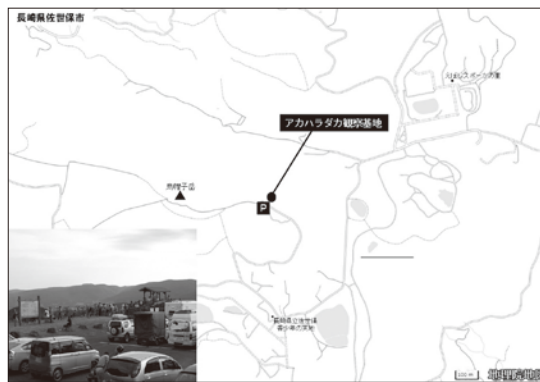


図 烏帽子岳の位置図

朝の8時前後です。前日烏帽子岳周辺や本土北部でねぐら入りしていた個体が、次々と飛び立ちます。低い高度で飛来するので観察や撮影には最も適した時間です。9時頃までたっぷり楽しめます。次に飛来するのは11時頃になります。対馬を朝に出発した群れです。数も多くなりますが高度も少し高くなります。そして、3番目は午後1時頃です。朝鮮半島を朝出発した群れが飛来してきます。

●他に観察できるタカ

20日頃から午後になるとハチクマが東から飛来してきます。北からアカハラダカ、東からハチクマの両者が交差する光景も時々観察できます。午後2時頃からは近くを低く通過するハチクマを撮影できるのも魅力の一つです。

●留意点

観察するためには、倍率が8倍や10倍の双眼鏡があると便利です。9月は山もまだ暑いので熱中症対策を忘れないで下さい。また天候によっては冷えることもあるので、上着等もお忘れなく。観察地には売店等ありません。トイレは有ります。

Profile

今里 順一郎（いまだと・じゅんいちろう）。1955年長崎県生まれ。日本野鳥の会長崎県支部支部長。

サシバの渡りルート全容解明プロジェクト

連盟 調査研究室 文・写真

●サシバの渡り

サシバは、鳥に特別興味がなければ名前を知らない人も多いタカの仲間ですが、バードウォッチャーにとっては知らない人はいないほど知名度の高い鳥です。その理由の一つが集団で渡りをする点でしょう。秋はサシバの渡りシーズン。たくさんのサシバが柱になって上昇し、集団で渡っていく様子を観察するために、観察スポットにたくさんのバードウォッチャーが集まります。そのサシバがどこへどういうルートで渡っているのかは、これまで研究者や全国各地で観察する人たちの努力の積み重ねでかなり充実したデータが蓄積され解明されてきています。しかし、いろいろなことが分かってくればくるほど、分からないことが出てきているのが現状です。サシバを保全していくためには、渡りの全体像をより具体的に掘り下げていく必要があるのです。

●プロジェクトの開始

そのため、日本鳥類保護連盟ではアジア猛禽類ネットワークや日本野鳥の会、日本自然保護協会、奄美野鳥の会といった名だたる自然保護団体と、「サシバの渡りルート全容解明プロジェクト」を立ち上げ、GPS タグを使った調査を始めました（写真）。資金はクラウドファンディングで集め、2024 年 2、3 月に奄美大島北部で 11 羽、2025 年 2、3 月には奄美大島南部の宇検村で 11 羽、同年 5 月には千葉県神崎町の繁殖地において 4 羽と、これまで計 26 羽に装着してきました。

●奄美大島で越冬するサシバの渡りルートと繁殖地

奄美大島で装着した 22 羽はすべて国内移動をしました（図 1）。九州から四国に入るところまでは同じで、そのあと日本海側に抜ける個体と太平洋側を進む個体に大別することができます。到着場所は岩

手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、新潟県、長野県と、バラエティに飛んでいました。私たちがイメージする水田の広がる谷戸環境だけでなく、山地に降り立つものもいました。すべて国内移動で海外に渡った個体はいませんでした。装着したのは越冬数約 2,000 羽のうちの 22 羽で、全体の 1%ほどですから、海外から来ている個体もいるかもしれません。

●高山を越えるサシバたち

2024 年の春の渡りでは、北アルプスを越える繁殖地に急ぐ個体も確認されました。3,000m を超える山岳地帯を越えるのは並大抵のリスクではありません。それでも装着個体は落鳥することなく、繁殖地にたどり着いていました。

●越冬地は第二の故郷

2024 年に装着した 11 羽のうち 9 羽は、GPS タグも脱落せず、秋のデータも届けてくれました（図 2）。これによると装着した 9 羽は、おおむね同じようなルートをたどり、また同じ越冬場所にピンポイントで戻ってきて越冬したことが確認できました。日本地図で見れば、奄美大島は広大な海の中にある点でしかありません。ルートがずれれば島を素通りするかもしれませんし、ルートが合っていても島の形をしっかりと頭に入れていないと他の島と間違えるかもしれません。しかし、9 羽とも迷うことなく奄美大島にたどり着いたので、それだけでも驚きです。そ



写真 GPS タグを装着したサシバ

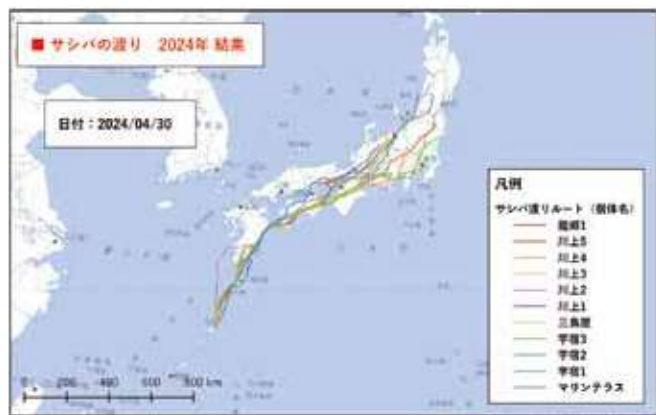


図1 2024年春の渡り

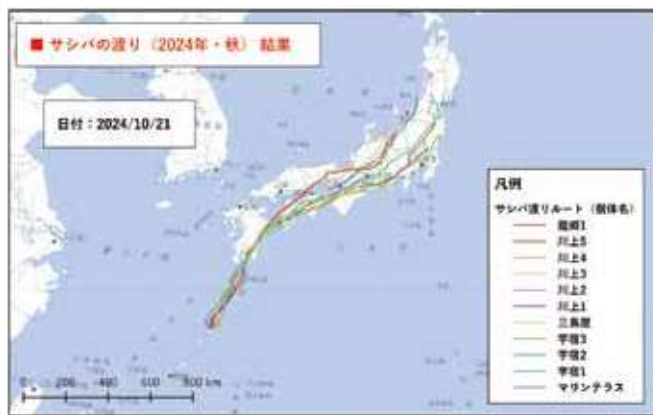


図2 2024秋の渡り

の中でもまったく同じ場所に戻ってきたのですから、サシバたちにとって、越冬地は思い入れの強い第二の故郷なのでしょう。

●副産物として得られたデータ

今回、渡りルート調べるために装着したGPSタグからは、ルート以外にも保全のために生かせる多くの情報が得られています。例えば移動にかかる日数もその一つです。2024年は最短で7日ほどで移動していましたが、2025年は4日という個体もありました。天候に大きく左右されていると思いますが、かなりのスピードです。また、高度も重要な情報です。GPSタグからは記録された位置の高度も情報として記録されていますが、これによりサシバの渡りを3Dでイメージすることができます。こういったデータは風力発電の建設にも参考にされることでしょう。

●保全のためにはより詳細に

いろいろな情報が得られているものの、渡りルートの全容を把握するためには情報はまだ不足しています。中国地方は今回示された渡りルートから外れていますが、そこで繁殖する個体はどういう渡りをしているのか、台湾や韓国、中国とはルートがどう交差するのか、またはしないのか、越冬地となるフィリピンやボルネオ、インドネシアの個体はどこに渡っていくのかなど。サシバという種を保全していくためにはより具体的に把握していかなければなりません。

ん。そうしないとどこを重点的に守っていくべきかという保全計画が立てられないのです。

以前、ルソン島北部のサンチェスミラでサシバの密猟が撲滅され、年間数千羽のサシバが無事に繁殖地に戻れるようになりました。このとき渡りの個体数に大きな変化が現れたのは日本ではなく台湾でした。どこを守ればこのサシバが増えるのか。こういったより具体的な情報は保全計画には欠かせないのです。

●渡りルートの全容解明のために

このプロジェクトは数年で結果が出るものではありません。このプロジェクトで得られた情報と先駆者が積み重ねてきた情報を、パズルを組み合わせるように埋めていき、足りないパーツを手に入れるためにさらなる調査を海外も含めて継続していくことが必須です。そのために今年度もクラウドファンディングを実施します。

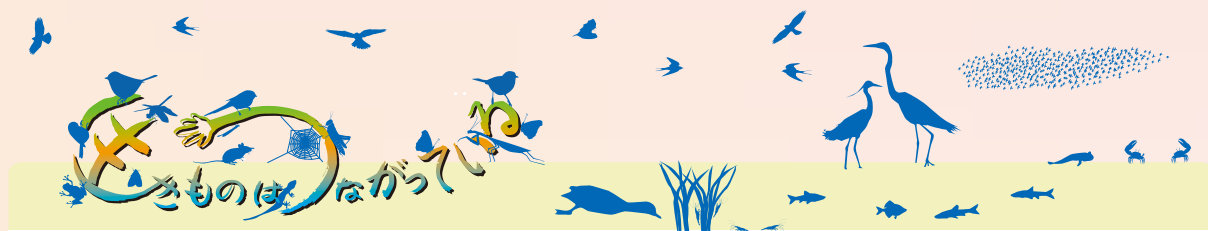
今年の調査地は与那国島と沖縄島で、フィリピンでも装着を検討します。今回は渡りの時期に合わせて9月から開催としました。サシバの渡りを観察しながらクラウドファンディングにもぜひご協力ください。

【第三弾】絶滅危惧種サシバの保全を皆の手で。渡りの全容解明への挑戦

開催期間：9月16日から11月7日

目標金額：250万円





メジロの渡り

連盟 調査研究室長 藤井 幹 文・写

●メジロは身近な存在

メジロは全国の市街地から山の上まで広く分布していて、庭にもやってきて緑色の愛らしい姿を見せてくれるので、鳥に興味がなくとも知っている人は多いと思います。姿に気づかずとも、「チーチー、チュルチュル」という声には聞き覚えがあるのではないのでしょうか。名前は目の周りが白いことからメジロ（目白）と呼ばれていますが、とても小さく、十数グラムしかありません。花蜜が好物で、春はウメやサクラ、ヒサカキ、冬はツバキなど、いろいろな花の蜜を食べに飛び回っています。また、オレンジジュースやリンゴジュースを庭に置けば喜んでやってきます。そして花蜜だけでなく木の実も好物で、花の時期が終わればサクランボやヒサカキの実、秋はミズキやアカメガシワ、冬はマユミやヌルデ、ヤブムラサキなど、いろいろな実を食べている姿を見ることができます（写真1）。



写真1 実を食べるメジロ（左上：アカメガシワ、右上：ヤブムラサキ、左下：リョウブ、右下：ヒサカキ）

●渡りをするメジロ

そんな一年中身近にいるメジロが渡りをするのはご存じでしょうか。いつも庭で鳴いている小さなメジロ。一年中いるから留鳥であって渡りとは縁がないと思っている人も多いのではないのでしょうか。もちろん渡らずに留鳥として定住しているメジロもいると思いますが、秋にタカの渡りを観察するポイントで観察していると、小群のメジロが渡っていくのを目にします（写真2）。稀に見る光景ではなく、よく見かけるのです。

山階鳥類研究所が出している「鳥類アトラス 鳥類回収記録解析報告書（1961年～1995年）」によ



写真2 渡っていくメジロ（伊良湖岬）



写真3 リュウキュウメジロ

れば、標識調査による移動回収記録は対象期間だけでも56例あり、新潟県で放鳥されたメジロが北海道や鹿児島県で回収された例もあるようです。標識調査とは全国にいる鳥類標識調査者（バンダー）と呼ばれる調査員が、鳥類を捕獲してシリアル番号が刻印された足輪を装着し放すというもので、放鳥地とは別の場所で再捕獲、回収されれば移動回収記録となります。移動距離は回収した記録の事例を参考にすると一日約30kmになるとか。

上昇気流を利用して上昇し、風に乗って滑翔するタカの渡りと違って、小鳥は風の影響を受けるとコントロールが効かず、体力を消耗するので、風の影響を受けにくい低空を移動します。海域に入れば、他の渡り鳥同様に水面スレスレを移動しているはずですが。また、タカのように風を利用しないのでひたすら羽ばたき続けなければなりません。小さな体で炎天下に羽ばたき続けられれば、体が熱くなりすぎてオーバーヒートしてしまうので、林を伝って移動したり日が傾いてから移動したりと苦労が絶えません。そして休む場所がない海を渡るとなれば小さな体に蓄えるエネルギーも相当量必要で、木の実などをたくさん食べなければなりません。あの小さな体で1日30km移動するのは過酷な旅路なのです。

●南西諸島に渡るメジロ

メジロの移動については、春秋に繁殖地と越冬地を往来する渡りではなく、巣立った幼鳥が親元から



写真4 南西諸島に渡ってきたメジロ（鹿児島県沖永良部島）

離れる際の分散ではないかという考え方もありますが、南西諸島では冬は留鳥の亜種リュウキュウメジロとは別に、本土から渡ってきたメジロが毎年やってきて越冬しています。

リュウキュウメジロと本土のメジロとは脇の色が違い、本土のメジロは脇が薄く茶色がかかるのに対し、リュウキュウメジロは腹部全体が白いのが見分けるポイントです（写真3、4）。南西諸島の北に位置する奄美大島では、春には北に戻っていく本土のメジロがいることが標識調査で分かっています。つまりほかの渡り鳥と同様に秋は南に移動し、春は北に戻るといった渡りをしているのです。

●メジロを観察しよう

なぜこのような渡りをするのか、渡りをしないメジロと渡りをするメジロの違いは何なのか、疑問はたくさんありますが、庭や近くの公園で見かけるメジロが、いつも見ているメジロではなく、どこから渡ってきたメジロと入れ替わっているかもしれないと考え、メジロの観察も楽しくなりそうです。また、秋に木の実をついばんでいるメジロがいれば、渡りのためにエネルギーを蓄えているのではないかなと思って観察すると、メジロを応援したくなりますね。ぜひメジロにもっと目を向けて観察してみてください。



野鳥と果実 目立つから美味しいとは限らない!?

相模原市立博物館 学芸員(生物担当) 秋山幸也 文・写真

●食べられてこそふえる植物

植物の果実の多くは、熟すと色が変わります。そこに私たちは季節を感じるのですが、野鳥はその色に食欲をそそられます。野鳥に「食べられる」ことは、果実に限っては損失ではなく、増殖のための戦略の一つです。果実とは、内部に種子を持ち、それを果肉や果皮で包んだ構造を持っています。野鳥が好む果実は、主として果肉に糖分や油脂分などを含み、それがしっかり整えられたのが「熟れた」状態です。

例えば、マユミ(写真1)やツルウメモドキの果実は明度の高い赤色で秋空に映えます。メジロやヒヨドリ、ツグミ類などが夢中になって食べ、たわわに実った果実が数日で食べつくされてしまうこともあります。

果実はなぜ、このように色合いを変化させてまで野鳥に食べられようとするのかと言えば、植物は自ら移動する手段を持たないからです。子が親に守られて育つ野鳥と異なり、植物は、太陽光がさえぎられてしまう親植物の元では子が育たないのです。親から離れて芽吹くよう、種子を果実ごと野鳥に食べてもらい移動しようというわけです。さらに徹底しているのが、こうした果実の多くには、果肉に発芽を抑制する物質が含まれていて、種子が果肉から離れてフンとして排出されてから芽生えるようになっています。

●二色効果の果実

熟したことを野鳥へ知らせる色は、赤のほか、紫、黄色など様々です。しかし、

多彩な色が織りなす自然景観の中において、その色だけではなかなか目立てません。そもそも果実に赤い実が多いのは、果実の背景となる葉の緑と



図 色相環

関係があります。色を環状に配置した色相環(図)で、反対側の色同士を「補色」と呼びます。補色の組み合わせは最もメリハリの利いたコーディネートになりますが、緑と赤はまさに補色関係なのです。

しかし、果実の中でも赤と緑の補色は要注意です。アキグミのようにジューシーで味わいのある赤い果実がある一方で、二色効果を発揮しているアオキ(写真2)やピラカンサ(トキワサンザシ)などは、果肉がスポンジ状だったり、中身が種子だらけだったりして、ジューシーさや栄養がほとんど感じられません。実際、真冬まで果実が残り、食糧難になって



写真1 マユミの果実。人間にとっては有毒なので要注意



写真2 アオキの果実。大きさのわりに果肉と言えるような部分はほとんど無い

から食べられることが多いようです。この二色効果はまやかしなのかもしれません。

そんな中、見事な二色効果を持つのがクサギ（写真3）です。花が終わると5枚の赤い萼片^{がくへん}が中の果実を守るように閉じます。果実が黒紫色に熟すと萼は星形



写真3 クサギの果実。赤い星形の萼片を背景に、黒紫色の果実が目立つ

に開き、二色効果に加えてその形でも目立たせます。こうなると、ヒヨドリやヒタキ類などが我先にと食べに来ます。毎年、クサギの果実が熟すころはその造形美にほれほれます。

●色も形も地味なのに

色も形も地味なのに、なぜか野鳥によく好まれる果実もあります。その代表格は、カラスザンショウです。果実は真っ黒で光沢があり、それなりに目立つのですが、他の果実と比べると渋すぎる色合いです。しかし、アオゲラなどのキツツキ類やメジロ（写真4）、シジュウカラなどが夢中になって食べます。

さらに地味なのが、キツタやネズミモチです。常緑の深い緑色の葉の上に、黒紫色の果実が実り、目立たせようという意図はほぼ感じられません。しかし、目ざとく見つけたメジロやツグミ類などがよく食べます。こうした果実は、味や栄養分によほど自信があるのかもしれません。

地味とは言えませんが、白い果実も少なからずあります。代表格はウルシ科のリウキュウハゼです。^{しよくさいぼく}植栽木として公園などに植えられていることがあり、果実は油脂分を多く含むため、多くの野鳥が取り憑かれたように食べます。

自生の樹木では、センダンがたくさんの白っぽい果実をつけますが、夢中で食べられているところはあまり見ません。ヒヨドリ（写真5）やツグミ類がしかたなく？ 食べている印象です。



写真4 カラスザンショウの果実を食べに来たメジロ

●難しい？ 野鳥の好み

ここまで野鳥が好む果実やそうでもない果実について紹介してきたものの、じつは、食べられる優先順位はどうも一定しないと感じているのが正直なところです。あまり好まれないと思われがちな果実が、他の人気の果実がまだ残っているのに群れが夢中で食べていたり、いつも真っ先に食べられてなくなる果実が、なぜかいつまでも残る年があったりします。

鳥がどの果実を好むのかは、その年の気候などによって異なるのかもしれませんが。渡り鳥の群れの構成と、その果実の実り具合とのタイミングや、果物と同様にその年の出来の問題もあるかもしれません。いずれにしても、先入観にとらわれず、今年は何の果実が人気なのかをしっかりと観察して記録しておきたいですね。



写真5 センダンの果実を食べるヒヨドリ。センダンの果実も人間にとっては有毒

プロフィール

秋山幸也（あきやま・こうや）。1968年神奈川県生まれ。相模原市立博物館学芸員（生物担当）。野鳥がおいしそうに食べている果実はなるべく自分でも口に入れてみているが、同じ種類の果実でも味が違うのを感じるが多く、先入観はよくないと感じるこの頃。

羽根探偵の 謎解きファイル

エピソード4

さとがみ
郷上マナツ

登場人物

羽根田 翔：探偵業をしているがなぜか羽根について異常に詳しく周囲からは羽根探偵と呼ばれている。

基本的に人見知りで不愛想だが羽根を見ると食いついてくる。

鳥居 明子：自然や生きものが好きな高校生。好奇心旺盛で明るい性格。

神谷 信二：博物館の生きもの担当の学芸員。生きものの知識が豊富で人当たりがいい。

木ノ下 智美：明子の親友でクラスメイト。怖がりなのにホラー好き。

明子はクラスメイトの智美といつも一緒に下校しているが、この日は智美から気味の悪い相談を受けた。

智美：「ねえ明子、ちょっと聞いてよ。私が住んでる団地の近くに小さな林があるんだけどね、そこを斜めに抜けるとショートカットになるからいつもそこを通ってるんだけど、この間その林の中でカブトムシとかクワガタの頭だけがたくさん落ちてる場所を見つけたの。頭だけってなんだか気味が悪いと思わない。」

明子：「確かにそれは不気味だね。誰かのいたずらか？」

智美：「多分そうだと思うんだけど、でもなんでこんなことするんだろう…。そう言えば最近 SNS で見たんだけど、呪いの儀式とか面白半分で作ってる人がいてね、もしかしたらそういう人が何かの儀式とかで作ってるのかもしれない。だって頭だけを集めて置いておくなんて異常だよな。」

明子：「それはそうだけど何かの儀式だなんて。もお智美はホラー系のサイトとか見過ぎなんだよ。」

智美：「そうだ明子って最近探偵事務所に入出入りしてるんでしょ！ ほら、この間弟子入りしたって言ってたじゃない！ ちょっと調べてみてよ。」

明子：「探偵って言っても、そういうことを調べてるわけじゃなくて…」

智美：「ねえお願い！ あそこを通らないといけなのに、このままじゃ怖くて一人じゃ帰れないよー。」

半ば強引に誘われて明子は智美と一緒にその林を見に行くこととなった。現地では智美が言っていたよう



写真1 明子が拾ってきた羽根

にカブトムシやクワガタの頭部が一か所に固まって落ちていたが、犯人の目星がつくはずもなく智美とはそこで別れ、明子はその足で羽根田の事務所に立ち寄った。

明子：「まあそんなことがありまして。」

羽根田：「まさか、私に犯人を^{さが}捜せとか言うんじゃないだろうな。」

明子：「いえいえ、まさか！ 見てもらいたいのはこれです。(写真1)最近野鳥の図鑑をよく見るようになったんですけど、この辺りにはハシボソガラスとハシボソガラスがいるんですね。で、これはカラスの羽根なのは分かるのですがハシボソガラスの方でしょうか。近くでハシボソガラスを見かけたんです。」

羽根田：「は～、本当に全然分かってないな、もういいから帰りなさい。そもそもなんで勝手に入ってきてるんだ！」

明子：「えー、ハシボソガラスじゃないってことですか！？ どのあたりが？ どうして??」

羽根田：「…君はメンタルだけは妙に^{みよう}強いな。まあ、手短に基本的なことだけを教えると、羽根の部位を特定しないとまず話にならない。」

明子：「羽根の部位ってこの前教えてもらった風切羽とか尾羽のことですね。(図1)」

羽根田：「そう、あんまりごちゃごちゃ説明しても君はどうせ分からないだろうから、風切羽、尾羽、^{あまおいばね}雨覆羽だけ説明しておこう。風切羽は横から見ると全体的に^{わんきよく}湾曲して見えるのが特徴(図2)、尾羽は基部、つまり生えている付け根側に^{かたよ}偏って湾曲している(図3)、これは実際に指で挟んでなぞってみるといいだろう。そして雨覆羽、これは^{うじく}羽軸が軽くくの字に曲がっているからすぐ分かる。(図4)」

明子：「ふーん、部位によって形が違うんですね。」

羽根田：「当たり前だ、羽根はただ生えているわけじゃない。それぞれで役割があるんだ。風切羽は湾曲していることで飛んでいる時に推進力や揚力という上に上がる力を生み出すし、尾羽は普段は風を受け流すた

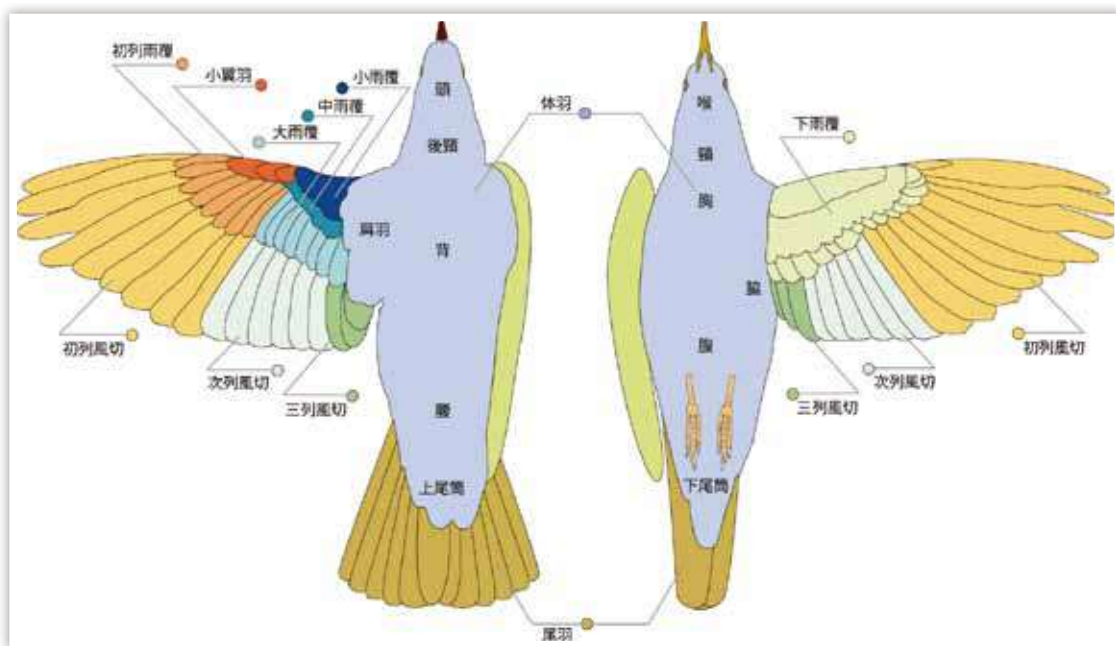


図1 羽根の名称

めに空気抵抗が少ない形状をしている。しかし、かじ取りやブレーキの役目もあるから風の抵抗に耐えるため、基部側が緩いアーチ状になっている。雨覆羽は雨水の浸透を防いだり空気抵抗を減らすために、隙間を埋められるよう、くの字になっているんだ！(写真2)」

明子：「なるほど、それぞれの形には意味があるんですね。ということは私が持ってきたこの羽根は…、尾羽ですね。」

羽根田：「その通り、尾羽だと分かなければその先に進めない。尾羽であれば23cm以上だとハシブトガラスと言っていいだろう。ハシブトガラスはハシボソガラスより体格がいいから羽根もその分大きい。そしてこの羽根は23cmを越えているからハシブトガラスでまあ間違いないだろう。あと胸や腹などに生えている体羽だと基部側のわた状になっている部分がハシボソガラスだと白いから、それでもどちらの種か見分けられる。(写真3)」

明子：「なるほどー！ どちらの種類のガラスかも分かっちゃうんですね、さすがです！」

羽根田：「分かったらさっさと帰りなさい。最近あの辺は暗くなると不審者が出るらしいからな。」



写真2 初列風切の隙間を埋める初列雨覆



写真3 ハシボソガラス(左)とハシブトガラス(右)の体羽

明子はすっきりして家路についたが、道すがら智美から相談されたことが気になりはじめた。カブトムシやクワガタの頭と体を引きちぎって頭だけを林に捨てている人物がいるとしたら不審者以外の何者でもない。その光景を思い浮かべて思わずゾッとして自然と早歩きになり最後は駆け足で家に帰り着いた。

翌日、明子は智美ともう一度例の林を一緒に見に行くことにした。気味は悪いけどこのままでは気になってしょうがないし、動物虐待だと思えば許せない気持ちも湧いてきていた。

智美：「よかった、今日も一緒にあそこまで帰ってくれるんだね。」

明子：「うん、そこまで遠回りでもないしね。それにやっぱり犯人を見つけたいじゃない！」

智美：「さすが探偵の弟子！ でも本当に犯人と出くわしたら危険じゃない？」

明子：「大丈夫だよ、私が証拠写真を撮るからその間に智美が警察に連絡して！ 証拠がないと警察は動いてくれないってドラマでやってたし。」

智美：「なんか本当に探偵っぽいね！ ワクワクしてきちゃった！」

そんな話をしているうちに例の林の側まで来ると、林の中に2人の人影が見えた。

智美：「えっ、うそ！ 本当に誰かいるよ！ 犯人じゃない？」

明子：「ちょっと声が大きいって、お、お、落ちていて！近づいて写真を撮るから！…ってあれ？神谷さんに、羽根田さん？」

神谷：「あれ、明子さん。こんなところで奇遇ですね〜。何してるんですか。」

明子：「神谷さんたちこそ、こんなところで何してるんですか。まさかカブトムシをバラバラにした犯人は神谷さんと羽根田さんだったんですか！？」

神谷：「えっ、バラバラにした犯人？ いやいや、

これはカラスが犯人ならぬ犯鳥ですよ。カラスは胴体の柔らかい部分だけ食べて頭部は捨ててしまうんです。このコナラは樹液が良く出るからカブトムシたちが集まってきて、そこをカラスが狙ってくるんですよ。」

明子：「だから一つの場所にかたまって落ちてるんですね。でも昨日羽根田さんは何も教えてくれなかったですよ。それに最近不審者が出るって言うから、きっとこのバラバラ事件の犯人に違いはないと思って、それで捕まえなきゃって。」

羽根田：「呪いの儀式だ何だと言われたら呆れて教える気にもなれないだろう。それにこの場所に来られると面倒そうだからちょっと脅しをかけたのに、君には逆効果だったか。」

神谷：「脅しだなんて、羽根田さんやめてくださいよ。いや、実はカラスの企画展を博物館でやることになったんですよ。それでカラスが甲虫を食べることは以前から知られていたのですが、映像を撮りたいと思っていたらこの場所を羽根田さんに教えてもらったんですよ。ほら、あそこにカメラがついてるでしょ。このカメラは赤外線反応して録画してくれるんですよ。」

智美：「へー、これカメラなんですね。UMA（※）とか映りそう！」

明子：「ちょっと智美、また呆れられちゃうって。」

神谷：「ふふっ、明子さんも智美さんもぜひ博物館にカラスの企画展を見に来てくださいね。あっ、せっかくだからカメラの画像を一緒に見てみますか。ほら、カラスが、あとタヌキも映ってますね。…あれ、何だろうこの生きもの。」

羽根田：「ちょっと見せてください。・・・なんでしょうね、こんな生きもの見たことない。」

智美：「え、やっぱりUMA！？ また怖くて一人じゃ帰れなくなっちゃうよー！！」

to be continued

※ UMA：未確認動物（Unidentified Mysterious Animal の略）

参考・引用文献 ○藤井 幹『羽根識別マニュアル増補改訂版』文一総合出版



図2 風切羽の形状

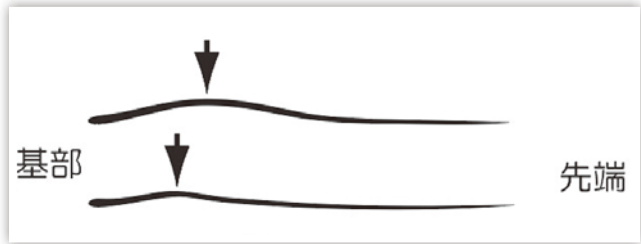


図3 尾羽の形状



図4 雨覆羽の形状

国際サシバサミット 2025 宇検村奄美大島 10月25-26日に開催!!

公益財団法人 日本自然保護協会 出島誠一 文・写真

●サシバサミットの開催概要

渡りをするタカ「サシバ」の繁殖地・中継地・越冬地が連携しながらサシバの保全を推進するため、2019年から国際サシバサミットを開催しています。第1回を栃木県市貝町^{いちかいまち}、第2回を沖縄県宮古島市（2021年）、第3回を台湾・満州郷（2023年）、第4回をフィリピン・サンチェスミラ市（2024年）で開催してきました。コロナ禍の影響を受けつつも、サシバの保全を通じて自治体が国際的な交流を進めてきたことの意義は大きいと考えています。

奄美大島の宇検村は、世界自然遺産登録地域であり、奄美群島最高峰の湯湾岳^{ゆわんだけ}から、美しい焼内湾^{やけうちわん}とその沿岸に全14のシマ（集落）を有する、自然豊かな場所です。サシバは、村の方言で「チュッピー」と呼ばれ、親しまれてきました。実際に、村内には高密度でサシバが越冬しており、長年の観察結果から、300羽以上生息していることがわかっています。

今回のサミットの注目点を三点ご紹介します。一つ目は、2021年以降に奄美大島で実施してきたサシバの調査結果です。日本鳥類保護連盟をはじめ、国際サシバサミットの運営を進めてきたNGOが連携して調査をしてきました。その一つが、2021年から2023年に実施した奄美大島全域でのサシバの越冬数調査です。調査の結果から、2,000羽以上のサシバが越冬しており、国内最大規模のサシバの越冬地であることが明らかになっています。奄美大島で越冬するサシバの密度の高さは、他の南西諸島の島々や、フィリピン等と比べて、圧倒的に多い印象です。基調講演で

は『サシバはなぜ奄美大島を越冬地として選ぶのか?』と題して、宇検村出身で長年奄美のサシバを観察してきた与名正三さん^{よなしょうぞう}と、岩手大学講師の東淳樹さん^{あづまあつき}がその理由に迫ります。もう一つは、2024年から実施したGPSによる渡り調査です。サミット当日は2025年2月末に宇検村でGPSを装着した個体（写真1）が、宇検村に戻ってきていると思われます。2024年に奄美大島北部で調査した個体と、何が違い、何が同じなのか？ 新たな事実をお伝えできるのではないかと思います。オンライン配信も予定しています。

二つ目は、奄美大島の子どもたちの発表です。先生方もたいへん熱心で、島内5つの小中学校からの発表が予定されています。2021年の宮古島サミットでは、奄美市立崎原小中学校^{さきばる}の生徒たちが、校庭に飛来するサシバを観察し、写真による個体識別を行った結果、前年と同じ個体が訪れていることを確認し、発表しています。今回の発表も楽しみです。



写真1 GPSを装着したサシバ



写真2 宇検村産の黒糖を使ったサシバサミットオリジナル黒糖焼酎
※デザインは変更になる可能性があります

三つ目は、ポスター発表です。国内では4年ぶりのサミット開催となり、全国でサシバに関わる方々の交流を重視したいと考えたことから、昼休みを含めて時間を長く設定しています。日本各地でサシバの観察や保全をされている方々が多数発表予定です。ぜひ交流を深めて下さい。

サミット開催中の2日間、会場でマルシェが開かれます。地域内外から飲食店を含む出店と、「サシバの鳴き声コンテスト（仮称）」などの催しが予定されています。サミットのプログラムと併せて、地域の食材や、サシバグッズの購入などを楽しんでいただけます。さらに、宇検村にある酒造会社「奄美大島開運酒造」では、宮古諸島の多良間島産の黒糖と、宇検村産の黒糖を原材料とした、国際サシバサミット開催を記念した黒糖焼酎が販売されます（写真2）。お土産にもぴったりの200mlで、売上の一部はサシバをはじめとする野鳥保護に活用されます。

充実した内容と企画で、奄美大島がはじめての方も、何度も来ている方も楽しんでいただけるサミットになっています。ぜひサミットにあわせて奄美大島・宇検村を訪れて見て下さい！

●これまでのサミットの歩み、および今後の展望

これまで4回、国際サシバサミットを開催してきま

した。サシバとの関わりは、地域ごとに様々ですが、サシバは生態系ピラミッドの上位種であり、一次産業や人の暮らしを含む、多様で豊かな自然環境の象徴であることと、サシバを保全することによって、自然に根ざした持続的な地域づくりを推進していくという方向性は、どの地域も同じです。初回の国際サシバサミットからの6年間、「ネイチャーポジティブ」や「自然を根ざした解決策（ネイチャー・ベースド・ソリューションズ）」等、持続可能な社会を目指す国際的な意識の高まりから、地域の自然資源の重要性が改めて注目されています。今後、地域の自然の恵みを生かした一次産業や観光業、顔の見える国際的な交流の重要性は、一段と高まると考えています。今回のサミットを、国内での更なる盛り上げの機会にすることを目指しています。

今回、GPS調査の結果から、国内における、繁殖地・中継地・越冬地の具体的な繋がりが明らかになってきました。今後、さらなる調査によって、海外を含めた具体的な繋がりが判明することが期待されます。そして、この結果をサシバの保全に繋げていくことが必要です。調査結果を発信するとともに、各自治体への情報提供と働きかけも進め、サシバの保全を地域の未来像として取り入れてくれる自治体を増やしていきたいと思います。

国際サシバサミットホームページ

<https://www.nacsj.or.jp/GFB-SUMMIT/>



GPSをつけたサシバの渡り状況

<https://readyfor.jp/projects/jspb2024/announcements>



Profile

出島誠一（でじま・せいいち）。公益財団法人 日本自然保護協会 生物多様性保全部部長、「国際サシバサミット」では実行委員会事務局長。サシバの繁殖環境の保全活動として神奈川県横須賀市で復田事業を推進、群馬県みなかみ町でイヌワシの生息環境保全や、ツキノワグマの四国地域個体群の保護活動等にも取り組む。

第 59 回全国野生生物保護活動発表大会 応募校野生生物保護活動資料の公開と一般投票について

第 59 回全国野生生物保護活動発表大会では、野生生物保護活動を行っている学校が応募するに際し、活動紹介資料（動画、報告書など）を提出していただき、連盟のホームページ上に資料に基づいて活動内容を掲載します。各校の活動内容は、9 月 29 日（月）から下記の URL にアップロードします。スマートフォンでも閲覧可能ですので QR コードを読み取ってご覧ください。

<https://www.jspb.org/katsudou-movie2025>

活動紹介を閲覧した方からの投票を受け付けます。良いと思った活動内容を選択いただき、各校の紹介ページにあります「投票する」ボタンから投票フォームへお進みください。投票は複数の学校に可能です。

投票の期間は 2025 年 9 月 29 日（月）から 10 月 17 日（金）までです。全国の学校が取り組む野生生物の保護活動をご覧ください。投票をお待ちしております。

※投票結果は審査に際し、参考として活用させていただきます。



ホームページ内の活動紹介と投票ボタン例



活動紹介ページへ

全国野生生物保護活動発表大会への寄付について

全国の小、中、高等学校の児童・生徒が取り組んでいる野生生物保護活動を発表する「全国野生生物保護活動発表大会」を環境省と共催しています。応募をいただいた学校の中から専門家による審査を行い、活動が優れているとみなされた学校計 9 校が環境省で活動内容やこれまでの成果などを発表します。

旅費については予算の関係上、参加者全員分の支払いができず、発表者側の負担となっているのが現状です。1 人でも多くの児童・生徒が活動発表大会に参加できるよう、例年皆さまから旅費支援のための寄付をお願いしている次第です。寄付の方法は

- ① 銀行振込もしくは郵便振替
- ② 「Yahoo! ネット募金」の活用したインターネット決裁システム
の 2 種類があります。「Yahoo! ネット募金」では 100 円から寄付をすることができ、1 度だ

けの寄付だけではなく、毎月一定の額を継続寄付することも選択できます。

- ① 銀行振込：三菱 UFJ 銀行 渋谷中央支店
普通預金 0113708
郵便振替：口座番号 00150-9-19214
※ 銀行振込の場合は、ご連絡の上で送金ください。

- ② Yahoo! ネット募金はこちらから
<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5425001/>
※ 2 千円を超えるご寄付は控除の対象となります。



将来の自然保護を担う子どもたちを育てるために、ぜひ皆さまからのご寄付をお願いできれば幸いです。ご協力よろしくお願いいたします。

書評コーナー

『鳥のなかま&分類・系統図鑑』

小宮輝之 監修／ポンプラボ 編集

体 裁：A5 160 ページ
ISBN：978-4- 86255- 751-3
定 価：1,870 円（税込）
発行日：2025 年 3 月 11 日
発 行：株式会社 カンゼン
〒101-0021 東京都千代田区神田須田町
2-2-3 8F
TEL：03-5295-7723（代表・企画営業部）
H P：https://www.kanzen.jp/



（公財）日本鳥類保護連盟 調査研究室長 藤井 幹・文

このタイトルを見たときにはどんな内容かと思いを巡らせました。分類や系統についての本であり、図鑑でもある?? 読み終わってみれば、分類をテーマに色々な角度からアプローチしているこの書籍のタイトルとして、「なるほど、そういうことか、確かにタイトルはこうなるな」と思わせるものでした。

分類や進化に関する話ですから、難しい話かと思いきや、写真や図をふんだんに使い、ビジュアル的に理解し楽しめる構成になっています。興味深い話を端的に分かりやすく説明してありますし、本の至るところに散りばめられた鳥のトリビアもお薦めです。雑学的な面白さから考え方、捉え方の面白さもあり、写真の占める割合が多い構成でありながら読み応えは十分です。たくさんの本を読み漁って得られる知識を、この本1冊で知ることができたと思うと、とても得した気分にもなります。鳥の祖先が恐竜という話も、本来はそれだけで1冊の本になるような話だと思いますが、重要なトピックスを抑えていて、基礎知識としては十分と言えるでしょう。

そしてこの書籍の冒頭から布石として掲載している写真も見どころです。皆さん収斂進化という言葉をご存じでしょうか。血縁の近くない生きものが、同じ餌生物をめぐる進化していった結果、似た外部形態になるというものです。これはハチドリとタイヨウチョウ、ツバメとアマツバメの例が有名ですが、ここではもっとたくさんの例が挙げられています。今まで漠然と見てきた鳥たちが、言われてみれば確かにこれ

も収斂進化か!? と読んでいて楽しくなりました。

最後にこの書籍のメインとなるのが、世界で分類されている鳥類44目を網羅した図鑑です。1万種を超える鳥類の写真を見るのはたいへんですが、こうして目という分類のくくりで紹介され、その目の代表的な鳥の写真を見てみると、なんだか鳥類のことを深く理解できた気になります。もちろん目の中にはたくさんの科があり、そして1万を超える種があるわけですから、この本を読むことですべてを網羅できるわけではないのですが、解説とともに写真を眺めていれば、そんな気にさせてくれるのです。鳥を理解するのに種から入るのではなく、目という大きなグループからアプローチし理解を深めていけば、この先皆さんが会おうであろう鳥たちへの関心がより一層深いものになるに違いありません。

執筆者プロフィール

藤井 幹（ふじい・たかし）。公益財団法人日本鳥類保護連盟調査研究室長。学生時代から羽根に魅せられ、羽根から種を識別することをテーマに羽根収集に明け暮れる。著書に『野鳥観察を楽しむフィールドワーク』（誠文堂新光社）『羽根識別マニュアル』（文一総合出版）、『世界の美しき鳥の羽根 鳥たちが成し遂げて来た進化が見える』（誠文堂新光社）、『動物遺物学の世界によろこそ! ～獣毛・羽根・鳥骨編～』（里の生き物研究会）、野鳥が集まる庭をつくらうーお家でバードウォッチングー（誠文堂新光社）など

連盟だより

寄付をしてくださった方

下記の皆様から寄付をいただきました。

心よりお礼申し上げます。

<一般寄付>

山下公寿、大賀昭雄、大賀由美、長野貞子、植木 祐、
長谷川 博、株式会社ワールドパーティー

(6月1日～7月31日、7名・団体、敬称略・順不同)

新会員のみなさん

どうぞよろしくをお願いします。

<個人正会員>

野尻恵子、中野智代、米田一絵、合田延寿、橋本宣弘
川原洋平、金田恵子、佐伯 肇、仲島 映、井坂 瑞、
奥 信太郎

<家族会員>

中野智代、奥 恵

(6月1日～7月31日、13名、敬称略・順不同)

使用済み切手・カード類を送ってくださった方

ご協力ありがとうございました！

小宮輝之、古橋純一、山田光世、岡田泰明、秋吉裕二
沼里和幸、長谷川 真一、鷲尾 美津子、
葛西臨海水族園、狩野川野鳥の会、長崎県自然環境課、
日本発条株式会社、川崎市消防職員協議会、日商岩井紙
パルプ株式会社、新東海製紙株式会社 資材部、山口県
下関農林事務所 森林部、有限会社シリカジャパン北海道、
公益財団法人ホシザキグリーン財団、公益財団法人
日本鳥類保護連盟京都、公益財団法人 日本鳥類保護連
盟山福井県支部

(6月1日～7月31日、20名・団体、敬称略・順不同)

「日本の野鳥カレンダー2026」発売開始！

「日本の野鳥カレンダー 2026」を9月1日から販売
します。ご注文はオンラインストアまたは電話、Eメール
で承ります。

<日本の野鳥カレンダー 2026 オンラインストア>

<https://www.jspb.org/calendar2026>

TEL：03-5378-5691

【販売価格】

●一般価格：1,430円(税込)

※30部以上の注文は1部1,287円(税込)、50部以上
の注文は1部1,144円で承ります。

●会員価格：1,200円(税込)

会員の皆さまに限り、カレンダーを割引価格で販売して

おります。ご注文は会員専用ページ(24ページ参照)、
または電話で承ります。氏名・送り先住所・電話番号と
必ず会員番号をお知らせください。

【送料】

1部：710円 2～5部：900円 6～19部：1,200円
20部以上：無料

【名入れ印刷】

「日本の野鳥カレンダー 2026」に社名・団体名・ロゴマー
クなどをカレンダー表紙および各月ページの下部に印刷
できます。50部から承ります。

令和7年度第1回理事会、定時評議員会の報告

令和6年度の事業報告案、及び決算報告案の議案を審議
するため、理事会と評議員会を開催しました。

【理事会】(会場とオンライン併用)

開催日時：令和7年6月5日(木) 15:00～17:00

場所：東京都杉並区梅里1丁目22-32

セシオン杉並 集会室

出席者：(敬称略・五十音順)

理事11名中、出席者下記の10名。

小宮輝之(会長)、岡本圭祐(副会長)、中島慶二(専
務理事)、出江俊夫、太田慶太、島田利子、橘 敏雄、
名執芳博、本藤泰朗、由井正敏

監事2名中、出席者1名。

望月政雄

●議題

第1号議題：「令和6年度事業報告及び決算(案)」に
ついて(表参照)

第2号議題：「令和7年度定時評議員会の開催(案)」
について

報告事項：「国際サシバサミット」について

「愛鳥懇話会」について

「理事の退任」について

【定時評議員会】

開催日時：令和7年6月24日(火) 14:00～16:00

場所：東京都杉並区梅里1丁目22-32

セシオン杉並 集会室

出席者：(敬称略・五十音順)

評議員8名中、出席者下記の5名。

大庭照代、奥山正樹、濱尾章二、水田 拓、横井謙一
理事2名

小宮輝之(会長)、中島慶二(専務理事)

監事2名中、出席者2名。

奥村明雄、望月政雄

●議題

第1号議題：「令和6年度決算(案)の承認」について

第2号議題：「理事の選任」について

連盟だより

理事・評議員・監事一覧（令和7年6月24日現在）

理事 11 名：（敬称略・五十音順）

小宮輝之（会長）、岡本圭祐（副会長）、
中島慶二（専務理事）、太田慶太、島田利子、
橘敏雄、名執芳博、林 哲、堀内基光（新任）、
本藤泰朗、由井正敏

評議員 8 名：（敬称略・五十音順）

大庭照代、奥山正樹、二ノ宮リム さち、濱尾章二、
早川雅晴、葉山嘉一、水田 拓、横井謙一

監事 2 名：（敬称略・五十音順）

奥村明雄、望月政雄

正味財産増減計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	15,609	1,647	13,962
②特定資産運用益	0	0	0
③受取会費	6,325,600	6,313,400	12,200
④事業収益	97,187,036	84,645,195	12,541,841
⑤受取補助金等	10,135,000	7,535,000	2,600,000
⑥受取寄付金	7,816,129	128,698,279	-120,882,150
⑦雑収益	4,859,360	1,738,596	3,120,764
経常収益計	126,338,734	228,932,117	-102,593,383
(2) 経常費用			
①事業費	125,316,380	106,273,883	19,042,497
②管理費	11,108,642	9,359,474	1,749,168
経常費用計	136,425,022	115,633,357	20,791,665
当期経常増減額	-10,086,288	113,298,760	-123,385,048
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	-10,086,288	113,298,760	-123,385,048
法人税、住民税及び事業税			0
当期一般正味財産増減額	-10,086,288	113,298,760	-123,385,048
一般正味財産期首残高	164,385,634	51,086,874	113,298,760
一般正味財産期末残高	154,299,346	164,385,634	-10,086,288
II 指定正味財産増減の部			
①特定資産受取利息	922	210	712
②一般正味財産への振替額			0
一般正味財産への振替額	-550	-550	0
当期指定正味財産増減額	372	-340	712
指定正味財産期首残高	13,749,015	13,749,355	-340
指定正味財産期末残高	13,749,387	13,749,015	372
III 正味財産期末残高	168,048,733	178,134,649	-10,085,916

インフォメーション

千葉

ジャパンバード
フェスティバル 2025

日時：11月1日（土）10:00～16:00

2日（日）9:30～15:00

会場：アビスタ、手賀沼水広場・水の館、
オオバン広場・鳥の博物館、山階鳥
類研究所

最寄駅：JR 常磐線・東京メトロ千代田
線 我孫子駅

JR 常磐線・東京メトロ千代田線 天
王台駅

JR 常磐・成田線 東我孫子駅

主催：ジャパンバードフェスティバル実
行委員会

HP：[https://www.birdfesta.net/jbf/
event.html](https://www.birdfesta.net/jbf/event.html)

東京

バード倶楽部野鳥写真展

日時：9月13日（土）～17日（水）

開館時間：10:00～17:30

（初日は13時開場、最終日16:00終了）

会場：新宿中央公園内 エコギャラリー
新宿

アクセス：大江戸線「都庁前」駅 A5 番

出口より徒歩5分

丸の内線「西新宿」駅2番出口より
徒歩10分

入館料：無料

主催：バード倶楽部

問合せ：080-6502-2556（代表 笠野）

神奈川

小鳥のアートフェスタ/
わくわく野鳥博

内容：鳥に携わる作家や関連団体のグッ
ズが多数終結！鳥が主役のイベントで
す。鳥の専門家によるオモシロミニ講
座もあります！

日時：9月3日（水）～9日（火）

10:00～20:00（最終日は17:00終了）

会場：京急百貨店・上大岡店7階催事場
アクセス：京急線 上大岡駅または横浜
市営地下鉄 上大岡駅 直結

HP：<https://www.keikyu-depart.com/>

兵庫

コウノトリとともに歩んだ20年
～次の20年に向けて～

内容：コウノトリ放鳥20周年を記念し
て、野生復帰の中核を担ってきた関係
者がこの20年を振り返るとともに、
活動報告や次の20年の展望について

語る座談会を実施します。

日時：10月18日（土）13:30～16:20

会場：豊岡市民プラザ多目的ホール（ア
イティ7階）

参加費：無料

主催：兵庫県立コウノトリ公園

HP：<https://satokouen.jp>

問合せ：Kounotori@pref.hyogo.jp（総
務課 鐘谷）

インフォメーションの情報募集

自然観察会・シンポジウム・
集会・写真展など、情報をお寄
せください。個人宅が連絡先の
場合、機関誌等への掲載は可か
うかもお知らせください。
FAX、郵便、e-mailのいずれか
でお願いします。11・12月号は
10月1日（水）まで。

E-mail：editor@jspb.org

使用済み切手・カード類提供のお願い

使用済み切手やカード類（パスカードは除く）を収集して現金化し、活動資金として自然保護に役立てています。切手は、消印も含めて封筒から切り取った状態でお送りください。なお、未使用切手、書き損じのハガキもよろしかったらお送りください。カード類（テレホンカード、図書カード、各種交通機関カード、ダムカード、文化遺産カード、ジオカード、ゲームカード）は、表面に



セロテープやホチキスを使用しないようお願いいたします。

（担当：岡安）

商品の注文について

商品のご購入は代金先払いでお願いしています。ゆうちょ銀行の定額

小為替、現金書留、郵便振替のいずれかで、商品名・個数・お届け先住所・氏名・電話番号（昼間の連絡先）をお書き添えのうえ、お申し込みください。なお、請求書、納品書を必要とされる場合は、担当までご相談ください。（担当：岡安）

バックナンバーの提供について

観察会等を主催する会員の方に、機関誌バックナンバー＋入会案内を無料でお分けしています（ただし、梱包送料はご負担いただきます。金額についてはお問い合わせください）。ご希望の方は、①お名前、②ご住所、③電話番号、④使用予定日、⑤希望数をご記入のうえ、FAX・郵便・e-mailのいずれかで、編集担当の吉田までご連絡ください。

会費の振替用紙について

振替用紙は、会費納入月の統一にあたり、年1回、3・4月号に綴じて

んでありますので、ご了承の程、お願いいたします。

広告募集

本誌では広告を随時募集しています。種類は、裏表紙カラー、本文カラー1頁、本文モノクロ1頁・1/2頁・1/3頁・1/4頁です。詳細は、編集担当の吉田まで、お問い合わせください。

編集後記

▼渡りに関する内容が盛りだくさんだった今号。もっと渡りについて知りたい方は、ぜひ『タカの渡り観察マニュアル』をお買い求めください。今回ご紹介できなかった観察地ガイドや、タカの渡りに関する疑問、観察中に出会う意外な鳥たちなど、読みごたえたっぷりの内容になっています！（吉田）

ご支援をお願いします

会費・ご寄付は下記の郵便振替口座へ
口座番号：00150-9-19214
加入者名：公益財団法人 日本鳥類保護連盟
※送金の内訳をお忘れなくご記入ください。

【年会費】

特別支援会員	1口	10,000円
個人正会員	1口	5,000円
家族会員	1口	1,000円
学生会員（学生・生徒）	1口	3,000円
法人会員	1口	20,000円

【一般寄付（愛鳥募金）】

当連盟の活動全般に有効に活用させていただきます。

【使途指定寄付】

シマフクロウ、サシバ、奄美大島の希少鳥類の保護など、使用目的を指定していただく寄付です。

詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.jspb.org/kihu>

なお、公益財団法人への2千円を超える寄付金は、寄付者の所得税などの税控除の対象になります。

主な連絡先のEメールアドレス

一般的な問い合わせ：webmaster@jspb.org
愛鳥教材について：岡安 hukuuu@jspb.org
調査・保護について：松永 research@jspb.org
機関誌について：吉田 editor@jspb.org
バードピアについて：岡安 birdpia@jspb.org
会員・会費について：吉田 kaiin@jspb.org

私たちの自然

第66巻9・10月号 通巻No.660 2025年9月1日発行
定価1,200円（税込）（会員の購読料は会費に含まれます）

発行：公益財団法人 日本鳥類保護連盟

代表者：小宮輝之 編集長：中島慶二

編集主幹：吉田裕樹

編集委員：藤井 幹

松永聡美

ISSN 0910-6987

©2025 Japanese Society for Preservation of Birds

誌面デザイン・印刷：日本印刷（株）

公益財団法人 日本鳥類保護連盟

〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3F

TEL：03（5378）5691 FAX：03（5378）5693

ホームページ：<https://www.jspb.org/>

事務局業務時間 9:30～17:30（土・日・祝祭日休）



facebook：<https://www.facebook.com/jspb.org/>

X（旧Twitter）：<https://twitter.com/jspb2020>



facebook



X

日本鳥類保護連盟会員限定サイト

<https://www.jspb.org/membership-page>

パスワード：jspb660

会員限定サイトでは『私たちの自然』バックナンバー

（過去1年分）閲覧と一部の商品を会員限定価格で購入できます！



日本の野鳥カレンダー 2026

写真は全国の愛鳥家から募集した中から選定し、採用しています
四季折々の自然と、そこに生きる野鳥たちの姿をお楽しみください



1月 シマエナガ 上戸 鉄雄



2月 イカル 岩波 正行



3月 ハイイロチュウヒ 井坂 瑞



4月 ツバメ 孝森 正秀



表紙 オオコノハズク 吉田 幸弘



6月 ヤマドリ 野口 好博



7月 イワヒバリ 矢田 重雄



8月 ダイサギ 南 康裕



9月 ダイゼン 山口 靖弘



10月 ミヤマカケス 内藤 滋



12月 ルリビタキ 池田 圭数



5月 キビタキ 三島 明美

サイズ: B3判 (52cm×36cm) 枚数: 14枚 (表紙・解説含む)



11月 ホオアカ 坂東 俊輝

毎月どこかに
野鳥画家 神戸宇孝さんの
かわいいイラストが
描かれています

本体価格 1,430 円 (税込)

会員限定価格 1,200 円 (税込)

※会員価格での購入の場合は会員番号をご確認ください

梱包送料 1部: 710 円 / 2~5部: 900 円 / 6~19部: 1,200 円 / 20部以上: 無料

ご注文は電話・FAX・メールでも受け付けています

電話: 03-5378-5691 / FAX: 03-5378-5693 / E-mail: webmaster@jspb.org



オンラインショップ



会員の方はこちら
(要パスワード)

製作・販売 公益財団法人 日本鳥類保護連盟



海を渡るサシバと、その暮らしを支える宇検村の環境について考えよう！

国際サシバサミット

2025 宇検村奄美大島



里海を守ることもサシバを
守ることにつながる？

海を渡る小さなタカ？

“ピーちばヒュー”
って知ってる？



ピクイーと
高い声の特徴です！

サシバは
宇検村が大好き！



10.25(土)・26(日)

開催場所

宇検村総合体育館

鹿児島県大島郡宇検村大字湯湾2943

マルシェも
同時開催！

SAVE THE FLYWAY OF MIGRANT HAWKS

サミットの詳細や参加お申し込みはこちらをご覧ください。

<https://www.nacsj.or.jp/GFB-SUMMIT>

